



2022 年度

「学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書

2023 年 7 月

学部 P. 1～P. 16

大学院 P. 17～P.29

発行：法政大学教育開発支援機構 教育開発・学習支援センター

1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに18年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した記名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

春学期期末アンケートは、2022年6月30日（木）～8月8日（月）の期間に実施しました。4期制の学部は、春学期前半アンケートとして、5月19日（木）～6月8日（水）の期間にも実施しました。秋学期期末アンケートは、2022年12月7日（水）～2023年2月7日（火）の期間に実施しました。4期制の学部は、秋学期前半アンケートとして、10月26日（水）～11月16日（水）の期間にも実施しました。

本学は法学部（市ケ谷キャンパス）、文学部（市ケ谷キャンパス）、経営学部（市ケ谷キャンパス）、国際文化学部（市ケ谷キャンパス）、人間環境学部（市ケ谷キャンパス）、キャリアデザイン学部（市ケ谷キャンパス）、デザイン工学部（市ケ谷キャンパス）、グローバル教養学部（市ケ谷キャンパス）、経済学部（多摩キャンパス）、社会学部（多摩キャンパス）、現在福祉学部（多摩キャンパス）、スポーツ健康学部（多摩キャンパス）、情報科学部（小金井キャンパス）、理工学部（小金井キャンパス）、生命科学部（小金井キャンパス）の15学部から構成され、さらに同じ学士課程として通信教育学部（法学部・文学部・経済学部から構成）が加わります。

2022年度のアンケート対象全科目数は9,755科目（春学期4,866科目、秋学期4,889科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は8,245科目（春学期4,298科目、秋学期3,947科目）であり、結果として春学期16.6%、秋学期11.6%の回答率（回答した学生数／回答が想定される全学生数の百分率）を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年間の実数値を収録しています。

本アンケートの対象は本学学部で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態など明確な理由から2022年度は2,077科目のアンケートを非実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では376科目（講義全体の8%）、演習では934科目（演習全体の38%）、語学では304科目（語学全体の9%）、実験では168科目（実験全体の42%）、実技では14科目（実技全体の5%）であり、卒論では181科目（卒論全体の77%）であり、少人数で行う語学科目やゼミや研究がメインとなる科目で多くなります。これらの非実施科目では、独自のアンケートを行うなどの個別対応が行われています。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

以下では、問1～問3に関わる「教員の教授」と問4に関わる「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単純集計は学年別、科目種類別、履修選択別、担当教員別、科目設置主体別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

3. 教員の教授に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めを5段階評価として尋ねています。問いは「この授業では、積極的な工夫がされていきましたか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を追記しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた77.3%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた5.5%の学生は授業の工夫を求めています。平均値は春学期4.09、秋学期4.16、中央値は春学期・秋学期ともに4であり、全体的には授業に工夫があったと評価したことになります。

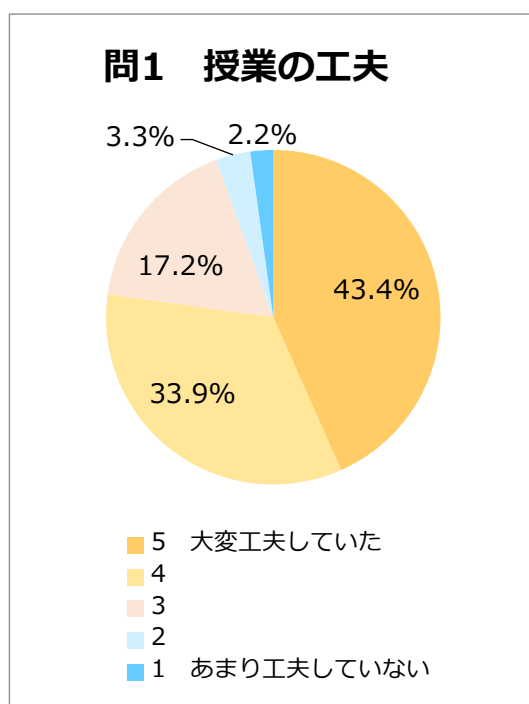


図1

(2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問いは「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む。」を追記しています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は47.9%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は19.4%でした。大学設置基準は、学生が予習・復習に相当の時間をかけることを前提に到達目標をさだめて授業を行うように規定しています。また、2012年8月に中央教育審議会が公表したいわゆる「質的転換答申」では、「事前準備・授業受講・事後展開を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠」との認識が示されており、2014年12月に公表された答申でも、アメリカの大学生に比べて日本の大学生の学習時間が短いことが指摘されています。それらを踏まえると、今後も、学生の授業外学習時間をいかに確保していくかが課題になると思われます。

上の2022年度の結果を2019年度、2020年度秋学期および2021年度の結果と比較します。2020年度春学期は授業改善アンケートを実施しませんでした。2019年度、2020年度秋学期、2021年度において、週1時間以上の授業外学習を行った学生は、それぞれ32.0%、59.4%、55.5%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は38.1%、11.9%、14.1%でした。オンライン講義中心となったコロナ禍当初の時期には授業外学習の時間が大幅に増加しましたが、その後対面授業が再開されていくにつれて、授業外学習の時間が漸減していったことがわかります。

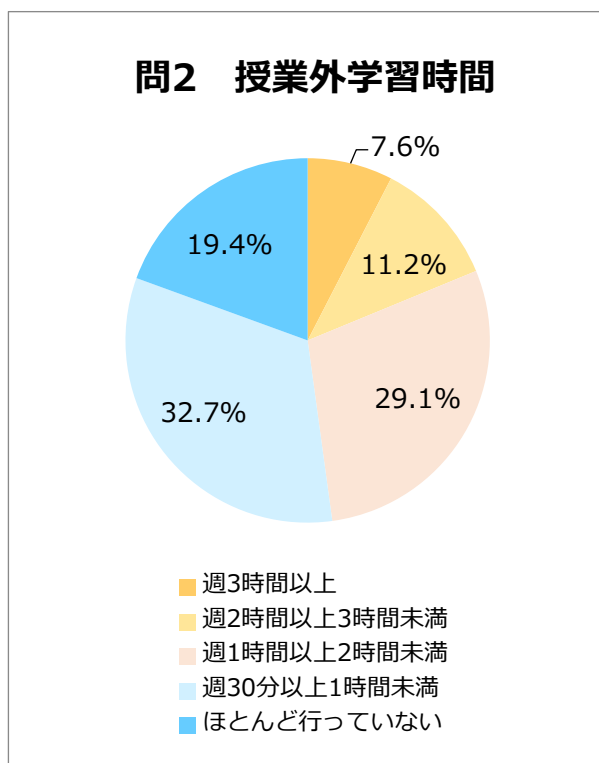


図2

(3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は72.7%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は6.7%でした。平均値は春学期3.96、秋学期4.02、中央値は春学期・秋学期ともに4なので、全体的には理解できたと自己評価したことになります。

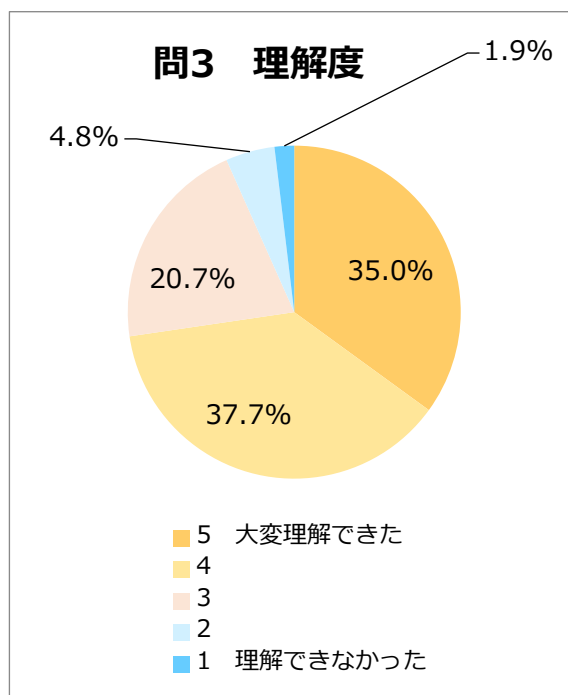


図 3

(4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めの関連を調べるため、問 3（理解度）と問 1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問 3（理解度）と問 1（授業の工夫の受け止め）ともに「5」と回答した学生が 27.7%、ともに「4」と回答した学生が 20.0%、ともに「3」と回答した学生が 9.1%でした。

理解度（問 3）と授業の工夫（問 1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると 0.44 となり、強い関係があることがわかりました（クラメールの連関係数は、 >0.25 で強い関係、 $0.1\sim 0.25$ で関係あり、 0.1 で弱い関係を示す）。授業の工夫が原因で理解度が結果であるという因果関係を厳密に検証してはいませんが、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関ではなく、因果関係を示唆していると考えられます。

表 1

問 1 × 問 3 (%)		問 1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問 3 理解度	5	27.7%	5.9%	1.2%	0.1%	0.1%	35.0%
	4	12.2%	20.0%	4.8%	0.5%	0.1%	37.7%
	3	3.0%	7.0%	9.1%	1.1%	0.4%	20.7%
	2	0.3%	0.8%	1.9%	1.2%	0.5%	4.8%
	1	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	1.0%	1.9%
計		43.4%	33.9%	17.2%	3.3%	2.2%	100.0%

次に、講義内容の理解度と授業外での学習への取り組みの関連を調べるため、問 3（理解度）と問 2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。高い割合を示したのは、問 3（理解度）に「5」から「3」、問 2（授業外学習時間）に「3」もしくは「2」と回答した学生で、全体の 58.4%を占めます。理解度（問 3）と授業外学習時間（問 2）

が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると 0.09 となり、弱い関係があることがわかりました。

表 2

問 2 × 問 3 (%)		問 2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問 3 理解度	5	4.2%	4.2%	9.7%	10.7%	6.2%	35.0%
	4	1.9%	4.7%	11.9%	13.1%	6.1%	37.7%
	3	0.9%	1.8%	6.1%	7.0%	4.9%	20.7%
	2	0.3%	0.4%	1.1%	1.6%	1.4%	4.8%
	1	0.2%	0.1%	0.3%	0.4%	0.9%	1.9%
計		7.6%	11.2%	29.1%	32.7%	19.4%	100.0%

4. 学生の修学に関するアンケート回答について

(1) 講義の満足度

「学生による授業改善アンケート」の問 4 は「この授業を履修してよかったですか。(5 段階評価でご回答ください)」として講義の満足度を尋ねています。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答割合は 76.7% でした。一方、不満を示す「1」「2」を回答した学生は 6.5% でした。平均値は春学期 4.12、秋学期 4.18、中央値は春学期・秋学期ともに 4 なので、全体的には満足したと評価したことになります。不満を示す「1」「2」を回答した学生の割合 6.5% は看過できず、その要因を明らかにしていく必要があると考えられます。

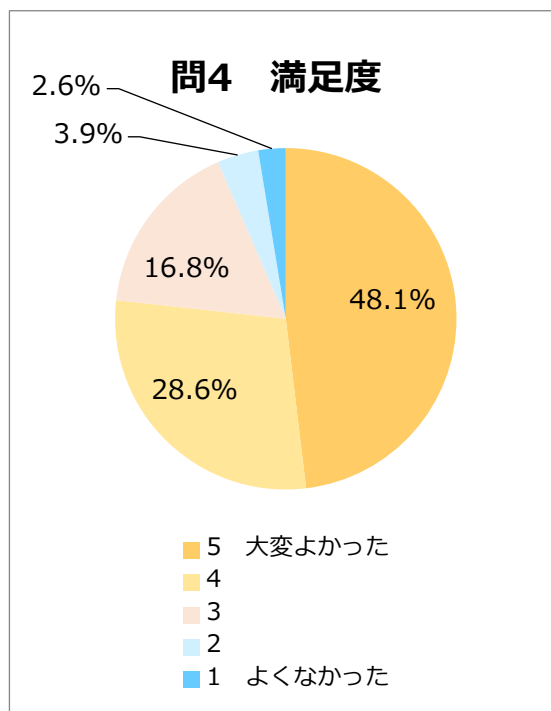


図 4

(2) 満足度と教授方法に関する回答との関連

講義の満足度と授業の工夫に対する学生の受け止めの関連を調べるため、問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問1（授業の工夫の受け止め）に対して、ともに「5」と回答した学生が35.7%、ともに「4」と回答した学生が17.6%、ともに「3」と回答した学生が8.9%でした。

満足度（問4）と授業の工夫（問1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.50となり、強い関係があることがわかりました。授業の工夫が原因で満足度が結果であるという因果関係を厳密に検証してはいませんが、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関ではなく、因果関係を示唆していると考えられます。

表3

問1 × 問4 (%)		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	35.7%	10.5%	1.6%	0.1%	0.1%	48.1%
	4	6.0%	17.6%	4.7%	0.3%	0.1%	28.6%
	3	1.4%	5.1%	8.9%	1.1%	0.2%	16.8%
	2	0.2%	0.5%	1.6%	1.2%	0.4%	3.9%
	1	0.1%	0.1%	0.4%	0.5%	1.4%	2.6%
計		43.4%	33.9%	17.2%	3.3%	2.2%	100.0%

次に、講義の満足度と講義内容の理解度との関連を調べるため、問4（満足度）と問3（理解度）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問3（理解度）に対して、ともに「5」と回答した学生が31.3%、ともに「4」と回答した学生が19.1%、ともに「3」と回答した学生が10.5%でした。

満足度（問4）と理解度（問3）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.52となり、強い関係があることがわかりました。理解度が原因で満足度が結果であるという因果関係、逆の因果関係、第三の要因による疑似相関のいずれであるかは明確ではなく、因果関係の検証には、さらなる研究が必要と思われる。

表4

問3 × 問4		問3 理解度					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	31.3%	14.4%	2.2%	0.2%	0.0%	48.1%
	4	2.9%	19.1%	6.1%	0.5%	0.0%	28.6%
	3	0.7%	3.6%	10.5%	1.8%	0.2%	16.8%
	2	0.1%	0.4%	1.4%	1.7%	0.3%	3.9%
	1	0.1%	0.2%	0.4%	0.6%	1.3%	2.6%
計		35.0%	37.7%	20.7%	4.8%	1.9%	100.0%

最後に、講義の満足度と授業外での学習への取り組みの関連を調べるため、問4（満足度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。高い割合を示したのは、問4（満足度）に「5」もしくは「4」と回答し、問2（授業外学習時間）に「3」もしくは「2」と回答した学生で、全体の47.9%を占めます。満足度（問4）と授業外学習時間（問2）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。またクラメールの連関係数を計算すると0.08となり、弱い関係があることがわかりました。

表5

問2 × 問4		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	5.0%	5.8%	13.8%	15.1%	8.3%	48.1%
	4	1.4%	3.3%	8.8%	10.1%	5.0%	28.6%
	3	0.7%	1.4%	5.0%	5.6%	4.0%	16.8%
	2	0.3%	0.4%	0.9%	1.3%	1.1%	3.9%
	1	0.2%	0.2%	0.5%	0.6%	1.0%	2.6%
計		7.6%	11.2%	29.1%	32.7%	19.4%	100.0%

5. 各種別におけるアンケート回答傾向について

(1) 学年別

アンケート回答総数 71,866 件のうち、1年生は 37,796 件、2年生は 20,065 件、3年生は 10,283 件、4年生は 3,617 件、その他（通信教育課程）は 105 件でした。各学年別の回答集計実数は巻末の学部データ（1）に示しています。各学年におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

1～3年生は全体とほぼ同じ傾向を示していました。4年生は全ての項目が1～3年よりも高い（各平均値 授業の工夫：4.21 授業外学習：2.80 講義の理解度：4.10 授業の満足度：4.31）という傾向が見られました。その他は全ての項目が高い傾向（各平均値 授業の工夫：4.44 授業外学習：2.94 講義の理解度：4.18 授業の満足度：4.28）を示していました。ただし、その他の有効回答数は他の学年と比較すると特に少ないことを考慮する必要があります。

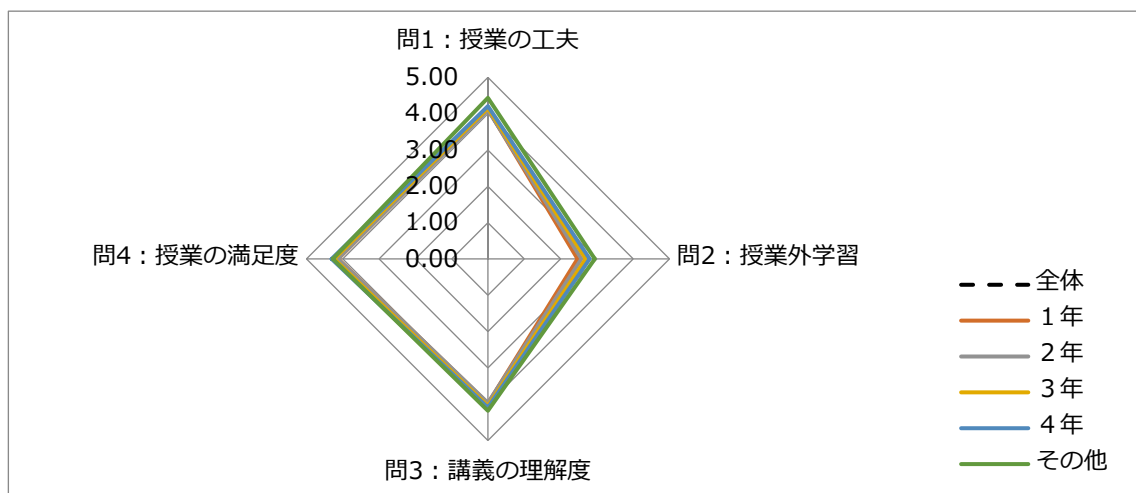


図5

(2) 科目種類別

アンケート回答総数 71,866 件のうち、講義は 46,869 件、演習は 4,492 件、語学は 16,305 件、実験は 2,320 件、実技は 1,820 件、卒論は 60 件でした。また、講義の 46,869 件の受講者数規模別内訳は、25 人未満は 3,298 件、25-49 人は 7,496 件、50-99 人は 13,705 件、100-199 人は 10,288 件、200-299 人は 4,671 件、300 人以上は 7,411 件でした。各科目種別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各科目種別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

講義 (合計)、語学は全体とほぼ同じ傾向を示していました。実験は、授業外学習の項目が全体より大幅に高い傾向 (3.5) を示しています。卒論、演習は全ての項目が高い傾向を示していました。一方、実技は講義の理解度、授業の満足度が全体よりも高い傾向を示し、昨年度と異なる傾向を示しました。これは、コロナ禍から平常授業に戻りつつある中で、対面授業が復活し、対面で直接実技について学ぶ機会が増えたことによるものと推察されます。また、学年別の結果では学年が高くなるにつれて評価が高くなる傾向があることが観察されていますが、それは高学年になると演習や実験があるためであることが推察されます。

講義の受講者数規模別で見ると、25 人未満は全ての項目がやや高い傾向 (各平均値 授業の工夫 : 4.30 授業外学習 : 2.56 講義の理解度 : 4.14 授業の満足度 : 4.38) を示していました。授業規模が 25 人以上になると、授業の工夫・講義の理解度・授業の満足度の項目においては、授業規模 (全体) の傾向 (授業の工夫 : 4.13 講義の理解度 : 3.99 授業の満足度 : 4.16) と同程度でしたが、授業外学習の項目については授業規模が小さいほど高い値を示す傾向がありました。

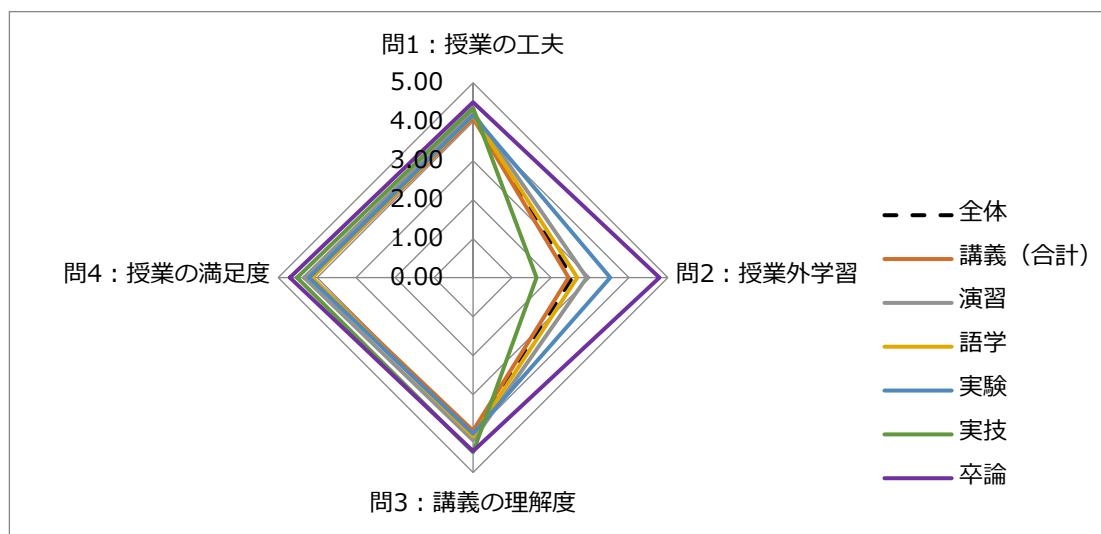


図 6

(3) 履修選択別

アンケート回答総数 71,866 件のうち、必修の授業についての回答は 25,282 件、その他は 46,584 件でした。履修選択別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。履修選択別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

必修は授業外学習時間がやや多い傾向 (平均値 2.67) を示していました。その他は全体とほぼ同じ傾向を示していました。必修の授業外学習時間がやや長いのは、単位がとれないと卒業できないので学生が努力するためであると思われる。

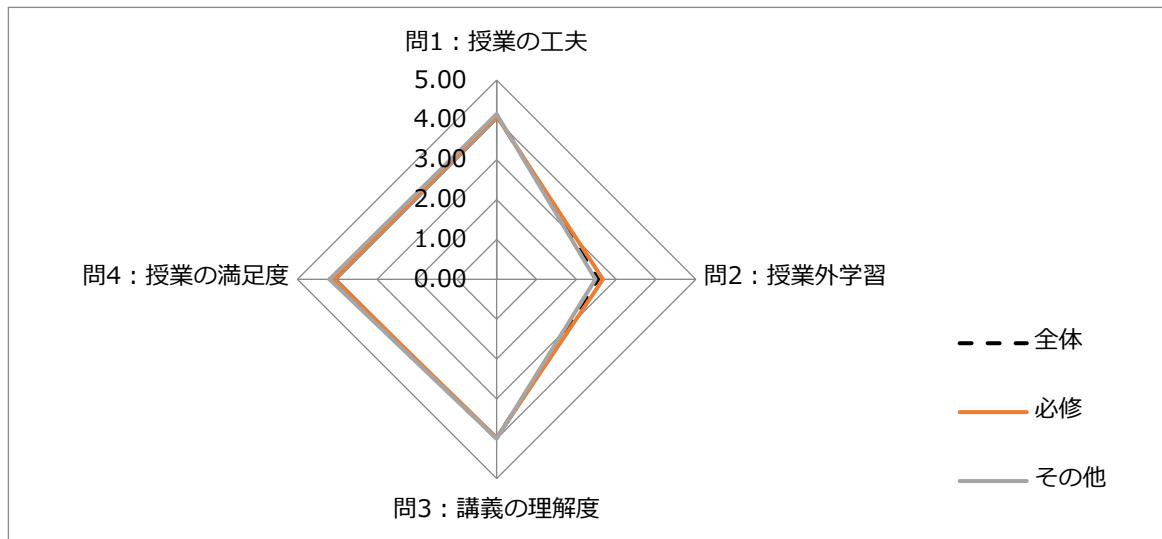


図 7

(4) 担当教員別

アンケート回答総数 71,866 件のうち、専任教員が担当する授業についての回答は 33,180 件、兼任教員は 38,686 件でした。担当教員別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。担当教員別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

専任教員および兼任教員共に全体とほぼ同じ傾向を示していました。

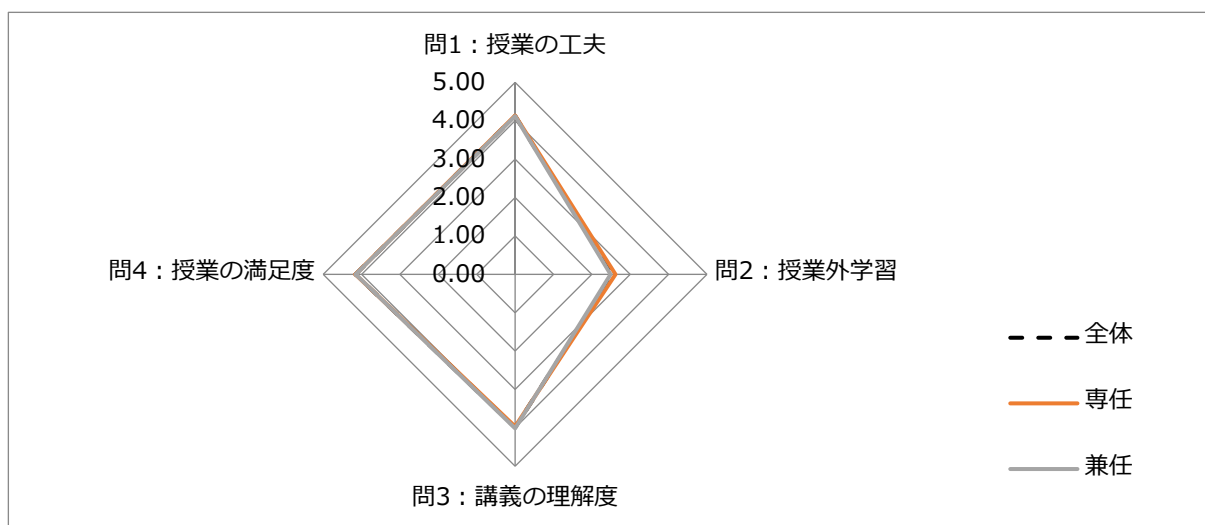


図 8

(5) 科目設置主体別

アンケート回答総数 71,866 件のうち、市ヶ谷学部は 16,596 件、市ヶ谷教養は 16,824 件、小金井学部は 13,220 件、小金井教養は 5,365 件、多摩学部は 17,244 件、通信教育は 1,883 件、その他 (ESOP、JLP) は 734 件でした。科目設置主体別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。科目設置主体別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。

市ヶ谷学部・市ヶ谷教養・多摩学部は全体とほぼ同じ傾向を示していました。小金井教養・小金井学部は授業外学習時間が多い傾向 (それぞれ平均値 2.59・2.82) を示していました。通信教育は全ての項目が高い傾向 (各平均値 授業

の工夫：4.16 授業外学習：3.10 講義の理解度：4.07 授業の満足度：4.35) を示していました。その他も全ての項目が高い傾向（各平均値 授業の工夫：4.34 授業外学習：3.05 講義の理解度：4.16 授業の満足度：4.36) を示していました。

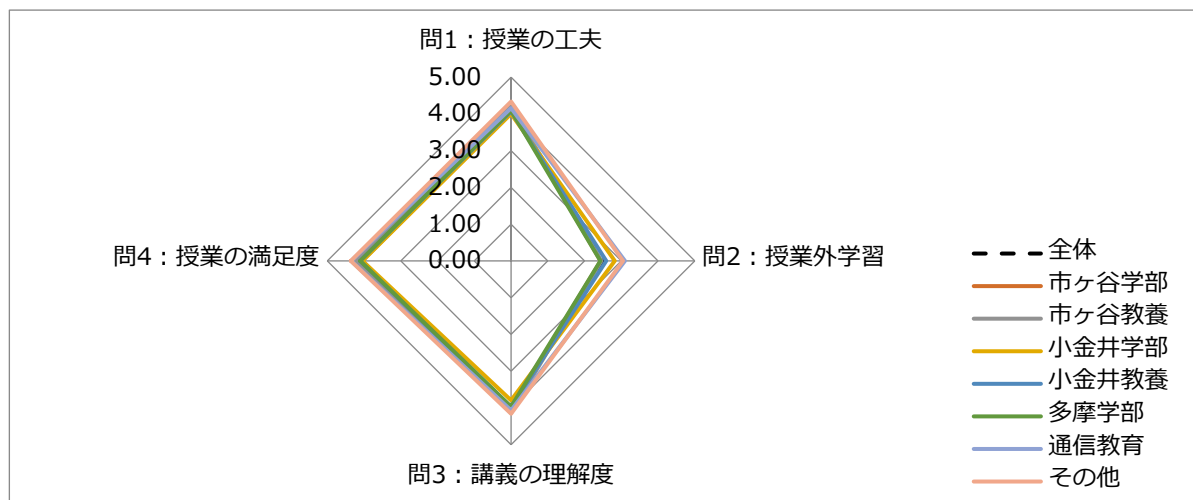


図 9

6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の推移を見ると、紙媒体で授業内実施を行っていた 2014 年度春学期までは約 20,000 名超でした。アンケートを web 化し、実施時期を期間内任意で行っていました 2016 年度秋学期までは約 4,000 名に減少しました。2017 年度春学期から、web 化にフィットした新しいアンケート内容に刷新するとともに授業内実施としました。その結果、回答した学生数は増加し、2017 年度は 28,030 名となりました。2020 年度春学期は、コロナ禍初期の状況を鑑みて本アンケートは実施されませんでした。そのため 2020 年度は、秋学期に本アンケートが実施されたものの回答した学生数は 8,190 名にとどまりました。その後、2021 年度は、春学期は 10,682 名まで増えましたが、秋学期は 8,440 名と再び回答した学生数が減少しています。2022 年度は、春学期は 11,788 名まで増えましたが、秋学期は 8,437 名と前年度とほぼ同数となりました。



図 10

各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出しました。2022 年度の秋学期の授業の工夫を尋ねた問 1 の平均値 4.16、講義内容の理解度を尋ねた問 3 の平均値 4.02、

授業の満足度を尋ねた問4の平均値4.18は、2019年度以前と概ね同程度の値を示しました。一方、授業外学習時間を尋ねた問2の平均値は、2020年度秋学期以降、2017～2019年度の平均値（2.0～2.2）よりも高くなっています（2021年度秋学期の平均値2.7）。ところが2022年度になるとこれがわずかに減少する傾向が見られました。2020年度のコロナ禍によるオンライン授業の形態の増加のためレポート等の課題が増え、そのような変化がコロナ禍がある程度収まりを見せた後も持続しているためではないかと推察されますが、今後の推移を見守る必要があります。

表6

平均値	2019年度 春学期	2019年度 秋学期	2020年度 春学期	2020年度 秋学期	2021年度 春学期	2021年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度 秋学期
問1	3.92	4.01	-	3.98	4.05	4.09	4.09	4.16
問2	2.14	2.18	-	2.83	2.74	2.72	2.57	2.57
問3	3.77	3.87	-	3.88	3.94	3.98	3.96	4.02
問4	3.94	4.04	-	4.05	4.11	4.15	4.12	4.18

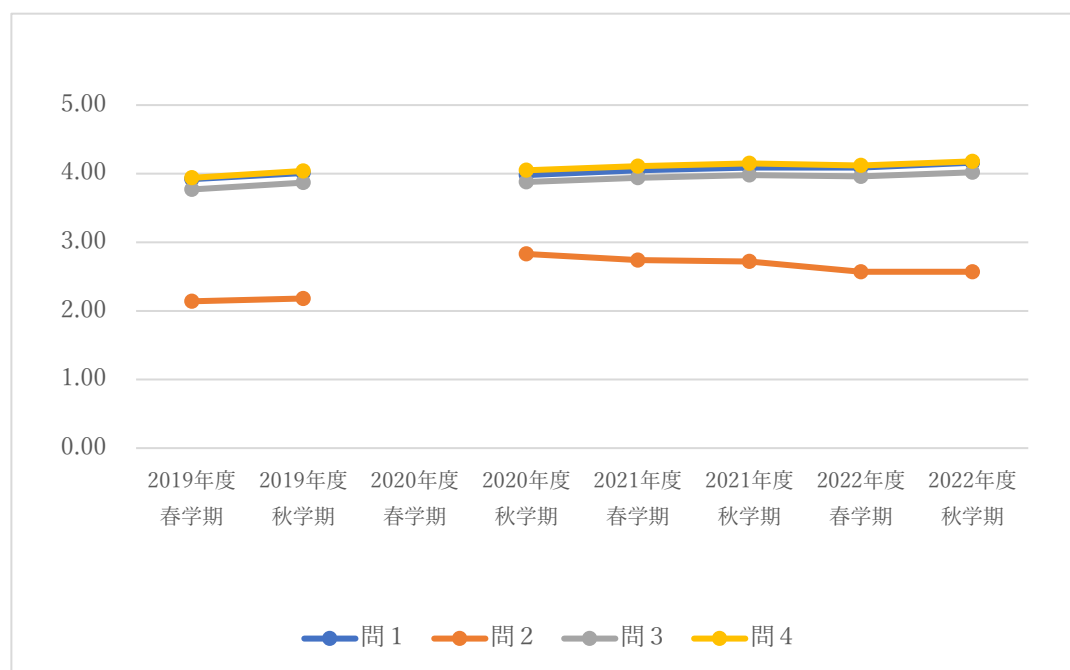


図11

7. おわりに

学部学生は（１）本学教員の授業に対する工夫が概ね行われている印象をもち、（２）授業外学習時間は概ね週１時間以上であり、（３）概ね理解したと感じていることがわかりました。また、理解度と授業の工夫には強い正の相関関係が考えられ、授業の工夫が理解度に影響を及ぼしていると考えられます。授業外学習時間のボリュームゾーンは週１時間以上であり、コロナ禍以前（2019年度）から学習時間が増加した昨年度のアンケート結果と同様の傾向を保っています。また2022年度の「学生生活実態調査」では、8割弱の学生が1日当たりの自習時間を1時間以上行っていると回答しており、ここでも昨年度と同様、コロナ禍以前（2019年度）と比較すると大幅に上昇した状態を保っています。この結果は、本アンケートの結果を裏付けるものです。また、非実施科目には多くのゼミ・研究などの科目が含まれており、それらに関する学習時間が反映されていない可能性があります。各学科カリキュラムを修業する上での総合的な学習時間をもっているかもしれません。しかし、平均的ではありますが週1時間未満の授業外学習時間は、一般的に改善されるべきポイントだと考えます。なお、昨年度と比較して、授業の工夫は概ね同程度、理解度はわずかに低下、満足度はやや上昇を示しています。理解度の上昇については、対面授業が2021年度に入ってから徐々に再開されるにともない、オンラインでは十分に行えないきめ細やかな学生への対応ができるようになったことが理由として考えられます。また、授業の工夫、理解度、満足度の間には強い相関が、授業外学習時間と理解度や満足度との間には弱い相関があることもわかりました。これらの関係についても今後の動向を検証する必要があるでしょうが、これらの学部生による評価からは、本学におけるFDがある程度積極的に推進されていると解釈できるかもしれません。

各授業が果たす目的は、所属するカリキュラム体系の位置付けにより異なる点にも留意が必要だと考えられます。また、「授業改善アンケート」の自由記述は各授業個別に活用がなされてきています。教育開発・学習支援センターでは、以下の活動が教員に対する「教育の質の向上」へのサポートに貢献できればと考えています。

- ・個別授業を支援する制度「授業リフレクションのための学生による授業参観」の提供
- ・ゼミ・研究活動の指導を支援する「ゼミ活動等を対象とした学生向けループリック」の提供
- ・FDセミナー等の開催
- ・英語による授業を支援する「アカデミック・サポートサービス」の提供
- ・論文やレポートに対して剽窃チェックを行うソフト「Turnitin」の提供

教育開発・学習支援センターの目的は「ファカルティ・デベロップメント（FD）を中心に、本学での主体的な教育改善と主体的な学習を効果的に支援すること」と表しています。大学での「知識・技能の習得」「知識・技能を実践・応用する能力の育成」「自ら問題の発見・解決に取り組む力の涵養」を効率的に教授するために、有益なサポートを教育開発・学習支援センターでは行ってまいります。今後とも、「授業改善アンケート」をはじめ教育開発・学習支援センターの活動へのご協力をどうぞお願い申し上げます。

お問い合わせ： 法政大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター (<http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>)
事務局 学務課教育支援課 Tel: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

付表 学部データ：2022年度全学集計表

問1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか。例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変工夫 していた	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<総計>	8,553	20,225	71,866	31,157	24,328	12,395	2,402	1,584
<学年別>								
1年	-	9,045	37,796	16,192	12,982	6,599	1,225	798
2年	-	5,653	20,065	8,615	6,610	3,619	747	474
3年	-	3,778	10,283	4,533	3,562	1,641	322	225
4年	-	1,700	3,617	1,753	1,148	523	107	86
その他	-	49	105	64	26	13	1	1
<科目種類別>								
講義(合計)	4,377	-	46,869	19,589	15,977	8,474	1,707	1,122
25人未満	1,028	-	3,298	1,689	1,077	406	80	46
25-49人	1,202	-	7,496	3,346	2,419	1,291	262	178
50-99人	1,116	-	13,705	5,378	4,808	2,637	526	356
100-199人	621	-	10,288	3,967	3,674	1,983	409	255
200-299人	195	-	4,671	1,897	1,549	905	197	123
300人以上	215	-	7,411	3,312	2,450	1,252	233	164
演習	988	-	4,492	2,231	1,411	646	119	85
語学	2,704	-	16,305	7,336	5,488	2,657	495	329
実験	196	-	2,320	996	851	383	54	36
実技	257	-	1,820	967	585	231	25	12
卒論	31	-	60	38	16	4	2	0
<履修選択別>								
必修	3,222	-	25,282	10,532	8,710	4,541	880	619
その他	5,331	-	46,584	20,625	15,618	7,854	1,522	965
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	14,434	11,341	5,637	1,064	704
兼任	5,060	-	38,686	16,723	12,987	6,758	1,338	880
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	7,563	5,411	2,668	610	344
市ヶ谷教養	2,305	-	16,824	8,117	5,618	2,391	413	285
小金井学部	1,147	-	13,220	4,755	4,909	2,736	480	340
小金井教養	553	-	5,365	2,138	1,902	1,013	189	123
多摩学部	2,084	-	17,244	7,313	5,683	3,178	631	439
通信教育	308	-	1,883	882	585	299	66	51
その他	103	-	734	389	220	110	13	2

問2. この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問含む。

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	週3時間 以上	週2時間以上 3時間未満	週1時間 以上 2時間未満	週30分以上 1時間未満	ほとんど 行っていない
<総計>	8,553	20,225	71,866	5,440	8,053	20,885	23,515	13,973
<学年別>								
1年	-	9,045	37,796	2,617	3,805	10,565	12,438	8,371
2年	-	5,653	20,065	1,444	2,248	6,150	6,775	3,448
3年	-	3,778	10,283	921	1,491	3,042	3,198	1,631
4年	-	1,700	3,617	440	496	1,094	1,079	508
その他	-	49	105	18	13	34	25	15
<科目種類別>								
講義 (合計)	4,377	-	46,869	2,743	4,954	13,128	15,955	10,089
25人未満	1,028	-	3,298	226	421	979	1,034	638
25-49人	1,202	-	7,496	622	834	2,058	2,431	1,551
50-99人	1,116	-	13,705	849	1,559	3,872	4,629	2,796
100-199人	621	-	10,288	528	922	2,695	3,629	2,514
200-299人	195	-	4,671	177	402	1,241	1,715	1,136
300人以上	215	-	7,411	341	816	2,283	2,517	1,454
演習	988	-	4,492	720	676	1,295	1,118	683
語学	2,704	-	16,305	1,002	2,019	5,779	5,697	1,808
実験	196	-	2,320	854	356	489	388	233
実技	257	-	1,820	70	43	190	357	1,160
卒論	31	-	60	51	5	4	0	0
<履修選択別>								
必修	3,222	-	25,282	2,387	3,035	7,844	7,900	4,116
その他	5,331	-	46,584	3,053	5,018	13,041	15,615	9,857
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	2,921	4,037	9,703	10,419	6,100
兼任	5,060	-	38,686	2,519	4,016	11,182	13,096	7,873
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	883	1,741	4,662	5,805	3,505
市ヶ谷教養	2,305	-	16,824	816	1,752	5,175	5,668	3,413
小金井学部	1,147	-	13,220	1,749	1,771	3,949	3,894	1,857
小金井教養	553	-	5,365	567	551	1,520	1,573	1,154
多摩学部	2,084	-	17,244	1,072	1,644	4,751	5,968	3,809
通信教育	308	-	1,883	290	402	578	433	180
その他	103	-	734	63	192	250	174	55

問3. この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった
<総計>	8,553	20,225	71,866	25,161	27,070	14,843	3,426	1,366
<学年別>								
1年	-	9,045	37,796	13,076	14,156	7,971	1,861	732
2年	-	5,653	20,065	6,946	7,351	4,325	1,023	420
3年	-	3,778	10,283	3,666	4,155	1,914	394	154
4年	-	1,700	3,617	1,426	1,373	613	147	58
その他	-	49	105	47	35	20	1	2
<科目種類別>								
講義(合計)	4,377	-	46,869	15,074	17,787	10,488	2,493	1,027
25人未満	1,028	-	3,298	1,344	1,275	521	116	42
25-49人	1,202	-	7,496	2,634	2,844	1,462	367	189
50-99人	1,116	-	13,705	3,942	5,248	3,347	849	319
100-199人	621	-	10,288	2,967	3,909	2,590	574	248
200-299人	195	-	4,671	1,482	1,730	1,078	272	109
300人以上	215	-	7,411	2,705	2,781	1,490	315	120
演習	988	-	4,492	1,904	1,677	738	134	39
語学	2,704	-	16,305	6,292	6,108	2,944	696	265
実験	196	-	2,320	747	970	495	79	29
実技	257	-	1,820	1,110	508	173	23	6
卒論	31	-	60	34	20	5	1	0
<履修選択別>								
必修	3,222	-	25,282	8,815	9,383	5,299	1,245	540
その他	5,331	-	46,584	16,346	17,687	9,544	2,181	826
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	11,113	12,706	7,102	1,615	644
兼任	5,060	-	38,686	14,048	14,364	7,741	1,811	722
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	5,834	6,484	3,260	764	254
市ヶ谷教養	2,305	-	16,824	6,869	6,406	2,730	592	227
小金井学部	1,147	-	13,220	3,368	5,178	3,557	807	310
小金井教養	553	-	5,365	1,885	1,951	1,187	229	113
多摩学部	2,084	-	17,244	6,159	6,088	3,658	917	422
通信教育	308	-	1,883	741	683	336	89	34
その他	103	-	734	305	280	115	28	6

問4. この授業を履修してよかったですと思いますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変よかった	4	3	2	1 よくなかった
<総計>	8,553	20,225	71,866	34,565	20,585	12,042	2,810	1,864
<学年別>								
1年	-	9,045	37,796	17,529	11,094	6,696	1,551	926
2年	-	5,653	20,065	9,566	5,662	3,441	812	584
3年	-	3,778	10,283	5,304	2,972	1,426	329	252
4年	-	1,700	3,617	2,104	838	462	113	100
その他	-	49	105	62	19	17	5	2
<科目種類別>								
講義(合計)	4,377	-	46,869	21,909	13,691	8,127	1,918	1,224
25人未満	1,028	-	3,298	1,962	825	374	78	59
25-49人	1,202	-	7,496	3,733	2,080	1,171	287	225
50-99人	1,116	-	13,705	5,959	4,142	2,635	606	363
100-199人	621	-	10,288	4,481	3,102	1,942	463	300
200-299人	195	-	4,671	2,101	1,370	855	227	118
300人以上	215	-	7,411	3,673	2,172	1,150	257	159
演習	988	-	4,492	2,578	1,140	547	148	79
語学	2,704	-	16,305	7,682	4,670	2,802	657	494
実験	196	-	2,320	1,117	719	374	62	48
実技	257	-	1,820	1,232	355	190	25	18
卒論	31	-	60	47	10	2	0	1
<履修選択別>								
必修	3,222	-	25,282	11,365	7,345	4,727	1,088	757
その他	5,331	-	46,584	23,200	13,240	7,315	1,722	1,107
<担当教員別>								
専任	3,493	-	33,180	15,845	9,713	5,568	1,252	802
兼任	5,060	-	38,686	18,720	10,872	6,474	1,558	1,062
<科目設置主体別>								
市ヶ谷学部	2,053	-	16,596	8,360	4,670	2,536	644	386
市ヶ谷教養	2,305	-	16,824	8,670	4,779	2,464	565	346
小金井学部	1,147	-	13,220	5,375	4,230	2,742	552	321
小金井教養	553	-	5,365	2,431	1,609	972	202	151
多摩学部	2,084	-	17,244	8,132	4,724	3,036	764	588
通信教育	308	-	1,883	1,180	369	209	62	63
その他	103	-	734	417	204	83	21	9

1. はじめに

2004年度から開始した「学生による授業評価アンケート」は、2005年度よりFD推進センター（現教育開発・学習支援センター）が主催する形として、これまでに18年間実施してきました。アンケートは、2009年度の期首・期中・期末の実施、教員への非公開を担保した記名式の導入を踏まえ「学生による授業改善アンケート」へ名称変更され、2014年度の秋学期よりWeb形式で実施するなど改善を図ってきました。2017年度からは、アンケート項目を5問とする大幅な改定を行い、アンケートは授業内で実施いただくよう、協力をお願いしました。

2022年度春学期は、2022年6月30日（木）～8月8日（月）の期間に実施しました。秋学期は、2022年12月7日（水）～2023年2月7日（火）の期間に実施しました。4期制の研究科は2022年5月19日（木）～6月8日（水）および2022年10月26日（水）～11月16日（水）にも実施しました。

本学の大学院は、人文科学研究科（市ケ谷キャンパス）、国際文化研究科（市ケ谷キャンパス）、経済学研究科（市ケ谷・多摩キャンパス）、法学研究科（市ケ谷キャンパス）、政治学研究科（市ケ谷キャンパス）、社会学研究科（市ケ谷・多摩キャンパス）、経営学研究科（市ケ谷キャンパス）、公共政策研究科（市ケ谷キャンパス）、人間社会研究科（多摩キャンパス）、情報科学研究科（小金井キャンパス）、デザイン工学研究科（市ケ谷キャンパス）、政策創造研究科（市ケ谷キャンパス）、キャリアデザイン研究科（市ケ谷キャンパス）、理工学研究科（小金井キャンパス）、スポーツ健康学研究科（多摩キャンパス）の15研究科と3インスティテュート（国際日本学インスティテュート、連帯社会インスティテュート、総合理工学インスティテュート）から構成され、さらに大学院の専門職学位課程として専門職大学院（法科大学院、経営大学院）が加わります。

2022年度のアンケート対象の全科目数は1,031科目（春学期513科目、秋学期518科目）でした。そのうち、アンケートに回答があった科目数は780科目（春学期400科目、秋学期380科目）であり、結果として修士課程は春学期28.3%、秋学期25.7%の回答率（回答した学生数／回答が想定される全学生数の百分率）、専門職学位課程は春学期34.2%、秋学期30.0%の回答率を得るアンケートを取得することができました。すべてのアンケートデータは巻末に年間の実数値を収録しています。

本アンケートの対象は本学学部・大学院で開講する全科目ですが、少人数制やゼミや研究の授業形態などの理由から博士後期課程には行っていません。また、2022年度は2,299科目のアンケートを非実施としました。非実施科目を科目種別で見ると、講義では716科目（講義全体の45%）、演習では1,167科目（演習全体の88%）、実験では308科目（実験全体の99%）であり、ゼミや研究がメインとなる科目で多くなります。

本年度アンケートを無事に終了できたのは、教職員ならびに各関係者のみなさまのご協力なしでは成し得ないことであり、「授業改善アンケート」を含め教育開発・学習支援センターの活動へのご理解について心から感謝を申し上げます。また、本年度アンケート結果の集計と分析を記した本報告書が、関係者各位の本学における「教育および学びの質の向上」の一助になれば幸甚に存じます。

2. 全学集計結果について

本報告書では、5段階の選択回答を求めた問1～問4の単純集計とそれぞれの分析、問3の回答に対する問1と問2のクロス集計とそれぞれの分析、問4の回答に対する問1、問2、問3のクロス集計とそれぞれの分析を記しました。

以下では、問1～問3に関わる「教員の教授」と問4に関わる「学生の修学」に分け、教職員側もしくは学生側から見える本学授業の現状を理解しやすく示しました。具体的には、「教員の教授」では理解度を問う問3を中心とした分析、「学生の修学」では満足度を問う問4を中心とした分析を行っています。

また、問1～問4の単純集計は学年別、受講者数規模別、担当教員別で集計し、全学平均値と比較した分析を行っています。さらに、アンケート回答傾向の経時推移を見るため、問1～問4の回答平均値と回答学生数の経時変化を示しました。

3. 教員の教授に関するアンケート回答について

(1) 授業の工夫に対する学生の受け止め

「学生による授業改善アンケート」の問1は、授業の工夫に対する学生の受け止めに5段階評価として尋ねています。問いは「この授業では、積極的な工夫がされていきましたか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)」を追記しています。全体の回答割合を見ると、大変工夫していた「5」と「4」を合わせた87.6%の学生が授業に工夫があったと受け止めていました。一方、あまり工夫をしていない「1」と「2」を合わせた2.5%の学生は授業の工夫を求めています。

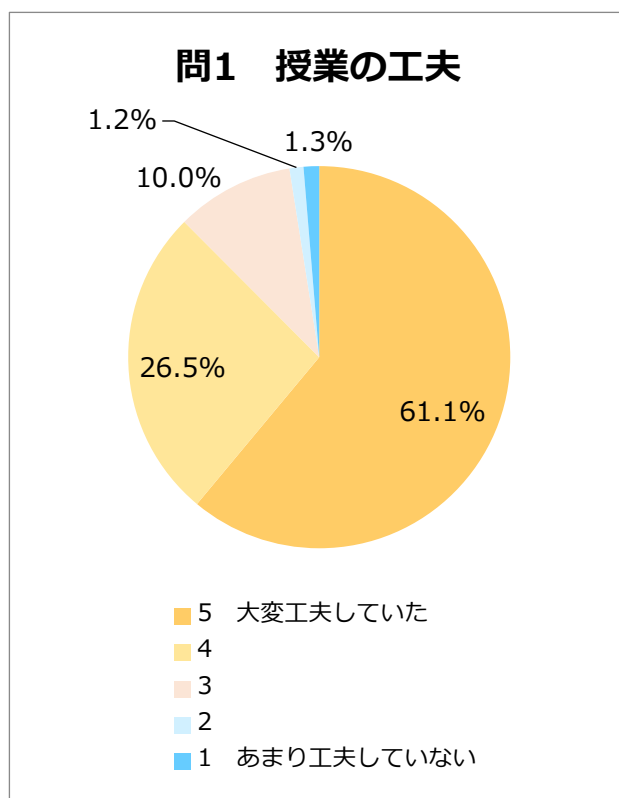


図1

(2) 授業外での学習への取り組み

「学生による授業改善アンケート」の問2は、授業外での学習への取り組みを5つの選択肢から尋ねています。問いは「この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。」とし、それに続き、回答へある程度のイメージをもってもらうために「例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問も含む。」を追記しています。全体の回答割合を見ると、週1時間以上の授業外学習を行った学生は77.5%でした。一方、授業外での学習をほとんど行っていない学生は6.1%でした。週3時間以上の授業外学習を行った学生は23.3%で、昨年度より減少しました（昨年度：23.7%）。また、学部より多い割合でした（学部：7.6%）。

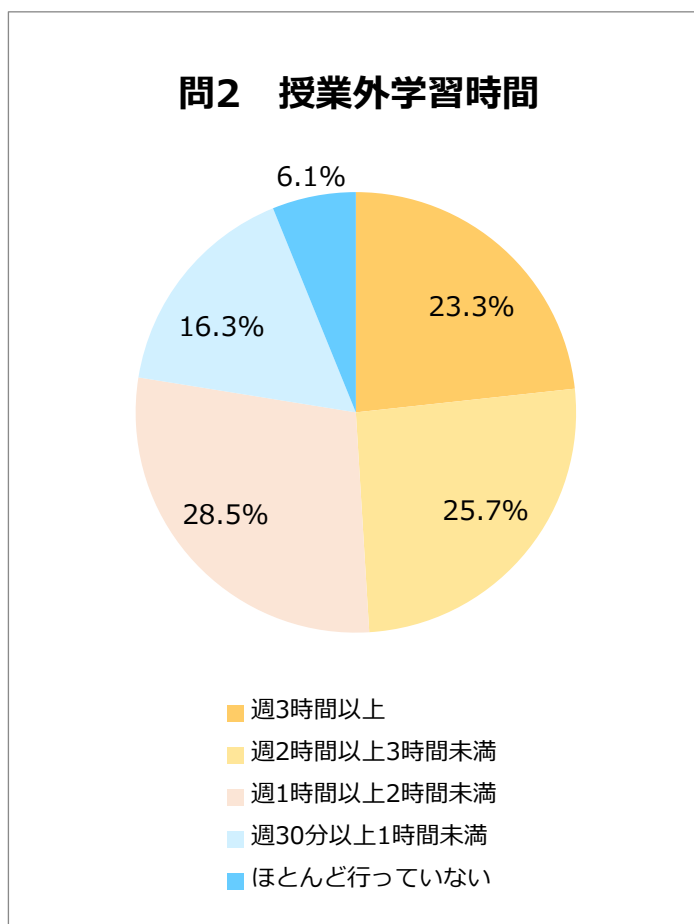


図2

(3) 講義内容の理解度

「学生による授業改善アンケート」の問3は「この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)」として講義内容の理解度を尋ねています。全体の回答割合（春+秋）を見ると、概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答割合は83.2%でした。一方、理解が困難であった「1」「2」を回答した学生は3.2%でした。

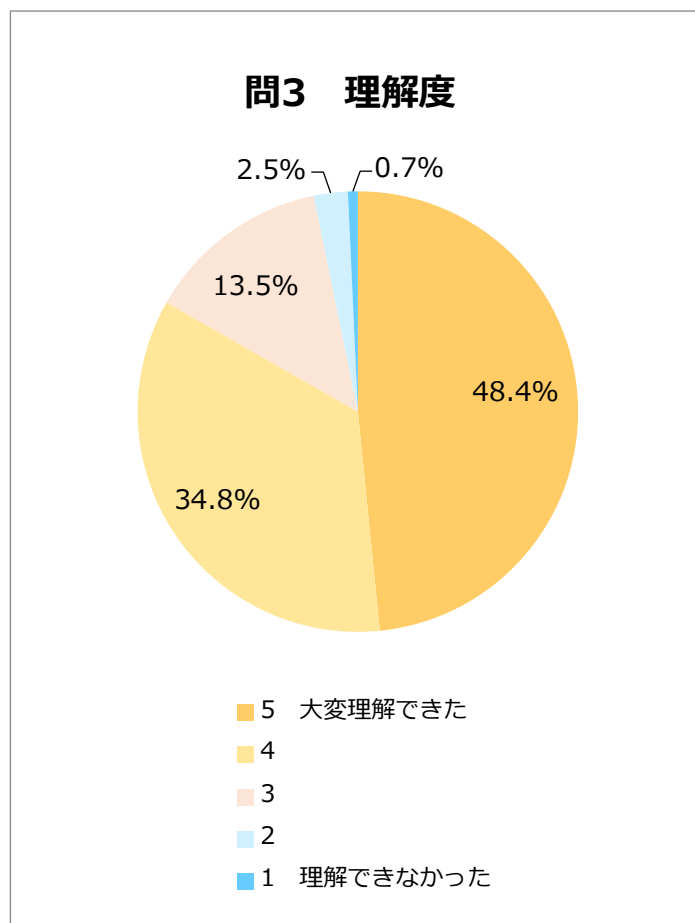


図 3

(4) 理解度と教授方法に関する回答との関連

講義内容の理解度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問3（理解度）と問1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。理解度（問3）と授業の工夫（問1）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではない（有意水準5%において、「独立である」という帰無仮説を棄却）ことがわかりました。クラメールの連関係数は0.47（クラメールの連関係数は、>0.25で強い関係、0.1~0.25で関係あり、0.1<で弱い関係を示す）であり、強い相関を認めました。

表 1

問1 × 問3		問1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	41.5%	5.6%	1.2%	0.0%	0.1%	48.4%
	4	16.0%	15.4%	3.0%	0.3%	0.1%	34.8%
	3	3.3%	4.8%	4.6%	0.5%	0.2%	13.5%
	2	0.2%	0.5%	1.1%	0.4%	0.4%	2.5%
	1	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.5%	0.7%
計		61.1%	26.5%	10.0%	1.2%	1.3%	100.0%

講義内容の理解度と授業外での学習への取り組みの相関を調べるため、問3（理解度）と問2（授業外学習時間）の

クロス集計を行いました。問3（理解度）と問2（授業外学習時間）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.14であり、それぞれの回答傾向にある程度の相関を認めました。概ね理解できた学生に当たる「5」「4」の回答（83.2%）のうち、週1時間以上の授業外学習を行った「5」「4」「3」を回答した学生は81.1%でした。一方、理解が困難であった学生に当たる「1」「2」の回答（3.2%）のうち、授業外での学習をほとんど行っていない「1」を回答した学生は25.0%でした。したがって、理解度と授業外学習時間には全体として正の相関関係がある程度存在していることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の理解度を上げるためには、授業外学習時間が重要になっているとも解釈することができます。一方で、修士論文に直接つながるような科目（「演習」など）の場合は、必ずしも学習時間に比例して理解が深まるとは限らない科目もあるかもしれません。探求を深めるような性質の授業の場合は、必ずしもこれは問題とならないでしょう。

表2

問2 × 問3		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問3 理解度	5	15.3%	13.3%	12.6%	5.6%	1.6%	48.4%
	4	5.5%	9.6%	11.2%	6.6%	2.0%	34.8%
	3	1.9%	2.4%	4.1%	3.4%	1.8%	13.5%
	2	0.5%	0.4%	0.5%	0.7%	0.5%	2.5%
	1	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	0.7%
計		23.3%	25.7%	28.5%	16.3%	6.1%	100.0%

4. 学生の修学に関するアンケート回答について

(1) 講義の満足度

「学生による授業改善アンケート」の問4は「この授業を履修してよかったですか。(5段階評価でご回答ください)」として講義の満足度を尋ねています。全体の回答割合を見ると、概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答割合は88.4%でした。一方、不満を示す「1」「2」を回答した学生は2.6%でした。

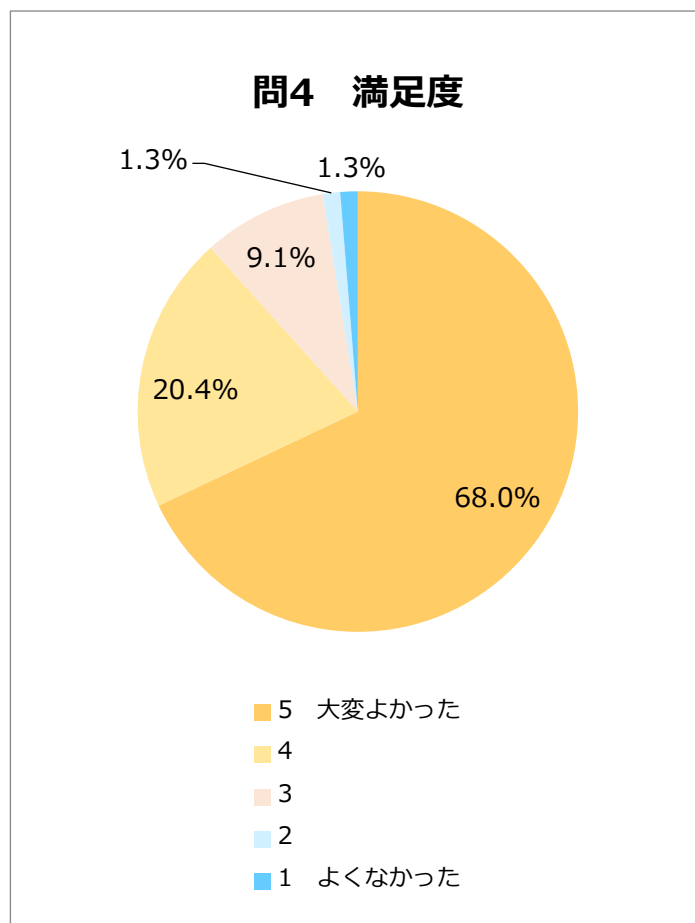


図 4

(2) 満足度と教授方法に関する回答との関連

講義の満足度と授業の工夫に対する学生の受け止めを調べるため、問 4（満足度）と問 1（授業の工夫の受け止め）のクロス集計を行いました。問 4（満足度）と問 1（授業の工夫の受け止め）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は 0.55 であり、それぞれの回答傾向に強い相関が認められました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.4%）のうち、授業に工夫があったと受け止めた「5」「4」を回答した学生は 94.7%であり、それに対して授業の工夫を求めた「2」「1」を回答した学生は 0.0%でした。これらを踏まえ、全体を俯瞰すると満足と授業の工夫には概ね正相関関係があることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業の工夫をすることが重要になっているとも解釈することができます。

表 3

問 1 × 問 4		問 1 授業の工夫					計
		5	4	3	2	1	
問 4 満足度	5	55.6%	10.9%	1.5%	0.0%	0.0%	68.0%
	4	4.6%	12.6%	3.0%	0.1%	0.0%	20.4%
	3	0.7%	2.7%	4.9%	0.8%	0.1%	9.1%
	2	0.1%	0.2%	0.5%	0.3%	0.3%	1.3%
	1	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.9%	1.3%
計		61.1%	26.5%	10.0%	1.2%	1.3%	100.0%

講義の満足度と講義内容の理解度との関係を調べるため、問4（満足度）と問3（理解度）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問3（理解度）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.50であり、それぞれの回答傾向に高い相関が認められました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.4%）のうち、概ね理解した「5」「4」を回答した学生は91.3%であり、それに対して授業の工夫を求めた「2」「1」を回答した学生は0.4%でした。これらを踏まえ、全体を俯瞰すると満足と授業の工夫には概ね相関関係があることが確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業の理解度を上げることが重要になっているとも解釈することができます。

表4

問3 × 問4		問3 理解度					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	45.8%	19.4%	2.7%	0.1%	0.0%	68.0%
	4	2.1%	13.4%	4.6%	0.3%	0.0%	20.4%
	3	0.4%	1.8%	5.6%	1.2%	0.1%	9.1%
	2	0.0%	0.2%	0.4%	0.6%	0.1%	1.3%
	1	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%	1.3%
計		48.4%	34.8%	13.5%	2.5%	0.7%	100.0%

講義の満足度と授業外での学習への取り組みの相関を調べるため、問4（満足度）と問2（授業外学習時間）のクロス集計を行いました。問4（満足度）と問2（授業外学習時間）が、無関係（独立）であるかどうかを（カイ二乗検定を用いて）調べると、無関係ではないことがわかりました。クラメールの連関係数は0.13であり、それぞれの回答傾向にある程度の相関を認めました。概ね満足した学生に当たる「5」「4」の回答（88.4%）のうち、週1時間以上の授業外学習を行った「5」「4」「3」を回答した学生は80.0%でした。このように理解度と授業外学習時間に、全体として概ね正の相関関係が確認できます。相関関係は因果関係ではありませんが、授業の満足度を上げるためには、授業外学習時間がある程度重要になるとも解釈することができます。一方で、修士論文に直接つながるような科目（「演習」など）の場合は、必ずしも学習時間に比例して満足度が高まるとは限らない科目もあるかもしれません。探求を深めるような性質の授業の場合は、必ずしもこれは問題にならないでしょう。

表5

問2 × 問4		問2 授業外学習時間					計
		5	4	3	2	1	
問4 満足度	5	18.6%	18.7%	18.9%	9.1%	2.7%	68.0%
	4	2.9%	5.2%	6.4%	4.3%	1.5%	20.4%
	3	1.0%	1.5%	2.6%	2.5%	1.4%	9.1%
	2	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	0.2%	1.3%
	1	0.6%	0.1%	0.1%	0.1%	0.4%	1.3%
計		23.3%	25.7%	28.5%	16.3%	6.1%	100.0%

5. 各種別におけるアンケート回答傾向について

(1) 学年別

アンケート回答総数 3,045 件のうち、修士 1 年生は 1,732 件、修士 2・3 年生は 317 件、その他学生は 115 件、専門職学位課程 1 年生は 669 件、専門職学位課程 2 年生は 141 件、専門職学位課程 3 年生は 20 件、博士後期課程は 51 件でした。各学年別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各学年別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各学年におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。修士と比較すると、1 年と 2 年以上で授業外学習時間に差が見られます。これは、修士論文の執筆に関連することに時間を費やすことが影響していると考えられます。

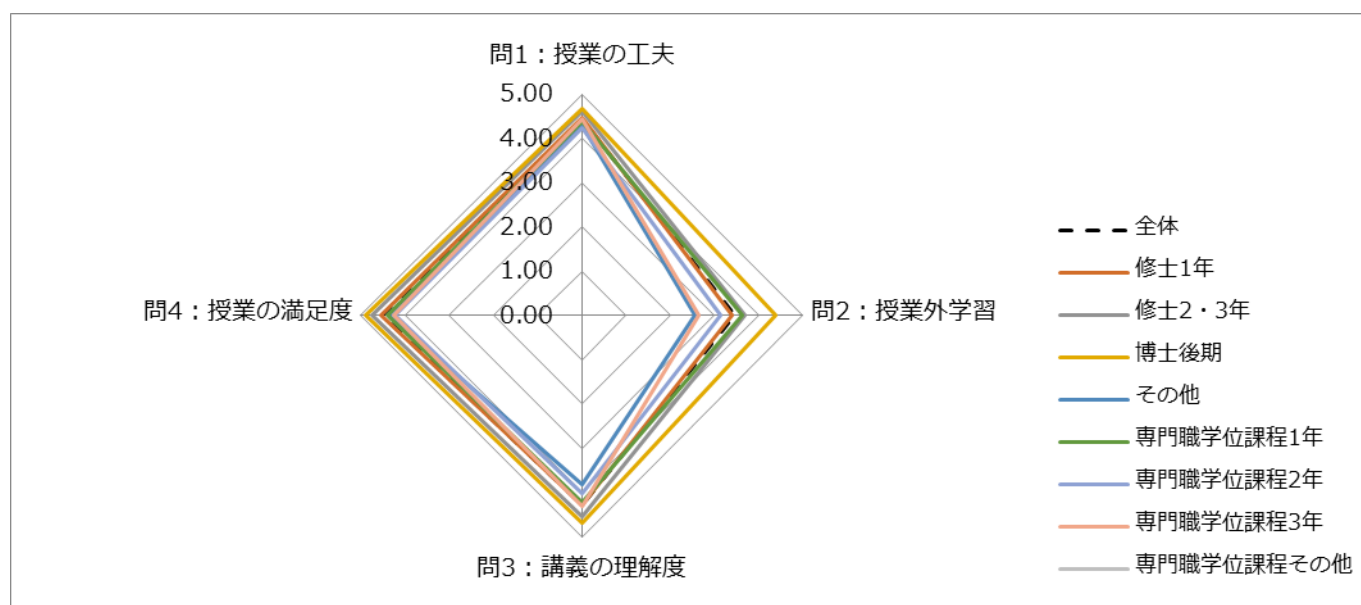


図 5

(2) 受講者数規模別

アンケート回答総数 3,045 件のうち、10 人未満は 801 件、10-24 人は 1,631 件、25 人以上は 613 件でした。各科目種別の回答集計実数は巻末データ (1) に示しています。各科目種別におけるアンケート回答傾向について、問 1 から問 4 のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。25 人以上の授業において授業外学習時間が少ない傾向があります。

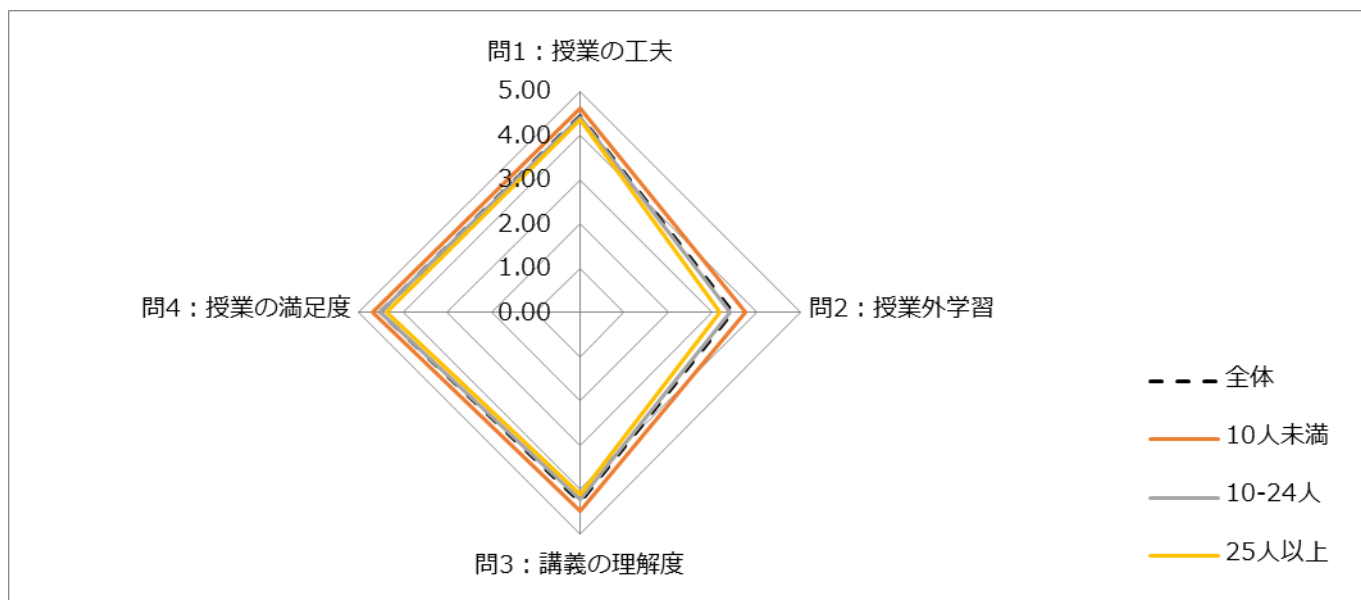


図6

(3) 担当教員別

アンケート回答総数 3,045 件のうち、専任は 2,233 件、兼任は 812 件でした。担当教員別の回答集計実数は巻末データ(1)に示しています。担当教員別におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、レーダーチャートで全体と比較しました。授業への理解度と満足度においては、専任と兼任に大きな違いはありませんでした。

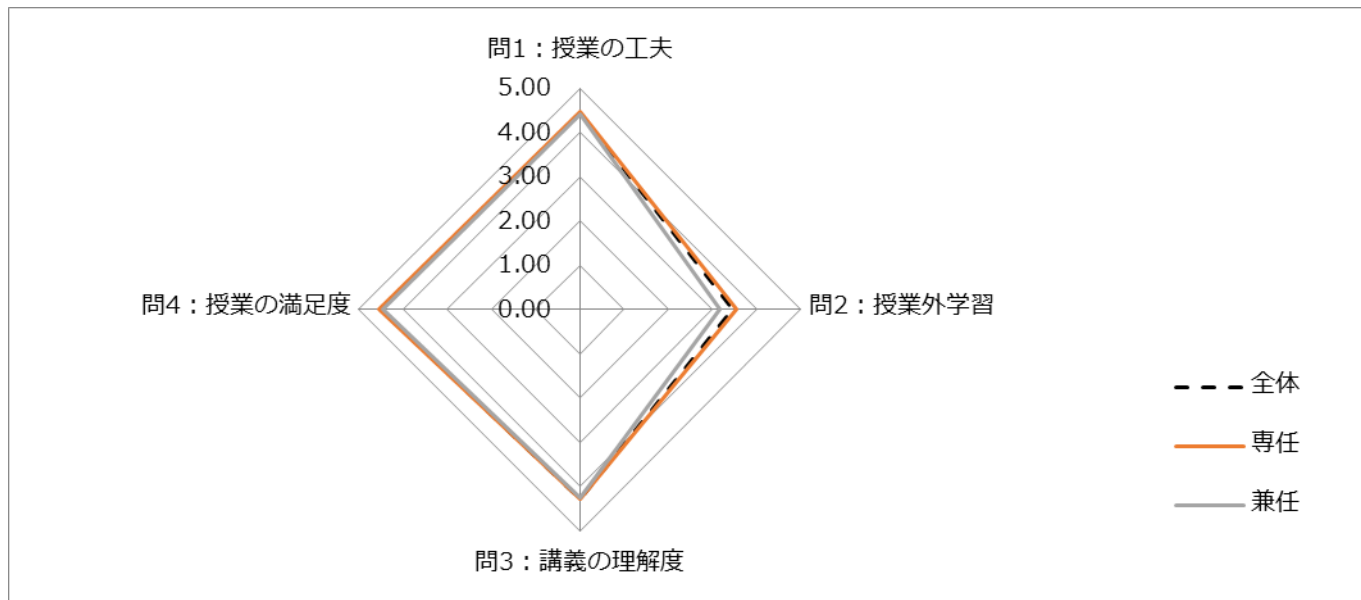


図7

6. アンケート回答傾向の経時推移

回答した学生数の推移を見ると、紙媒体で授業内実施を行っていた2014年度春学期までは約1,000名超でした。アンケートをweb化し、実施時期を期間内任意で行っていました2016年度秋学期までは約300名に減少しました。2017年度春学期から、web化にフィットした新しいアンケート内容に刷新するとともに授業内実施としました。その結果、回答した学生数は増加し2018年度は1,434名となりました。2020年度春学期は法務研究科、イノベーション・マネジメント研究科のみ実施したため、前年度と比較して回答者数が大きく減少しましたが、秋学期に回答者数は回復しました。2021年度は、新型コロナ以前の水準に回復しました。

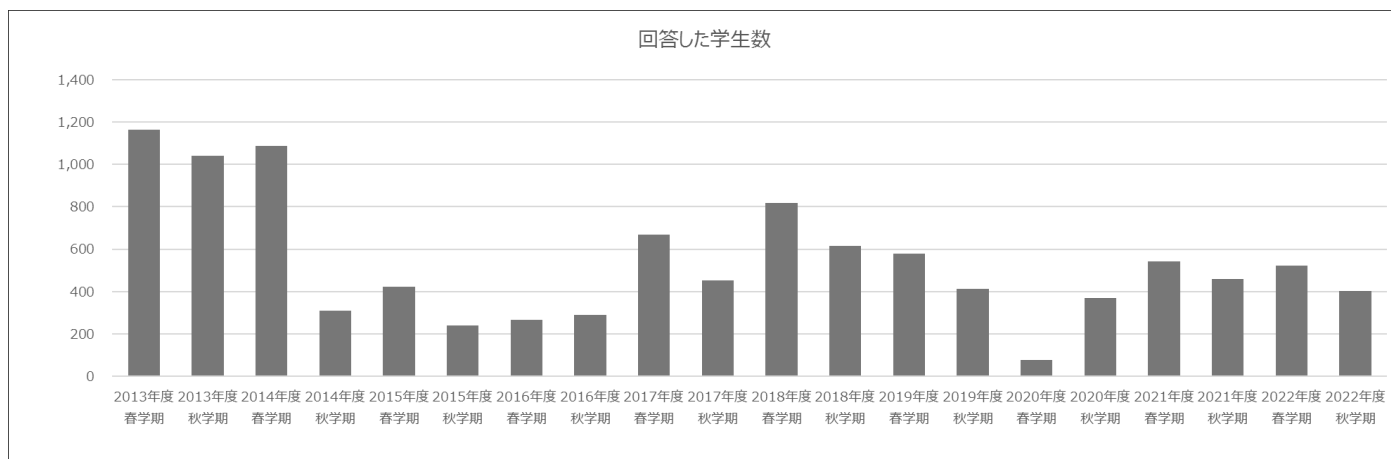


図8

各実施時期におけるアンケート回答傾向について、問1から問4のそれぞれの回答を「1」～「5」の平均値として算出し、2019年度春学期からの経時的変化を観察しました。授業の工夫を尋ねた問1は、2022年度春学期の平均値4.43が秋学期でもほぼ同じ4.48となりました。授業外学習時間を尋ねた問2は、2022年度春学期の平均値3.39が秋学期でもほぼ同じ3.50となりました。講義内容の理解度を尋ねた問3は、2022年度春学期の平均値4.26が秋学期でもほぼ同じ4.31となりました。授業の満足度を尋ねた問4は、2022年度春学期の平均値4.51が秋学期でもほぼ同じ4.55となりました。問2については、昨年度から減少傾向にあることがわかります。

表6

平均値	2019年度 春学期	2019年度 秋学期	2020年度 春学期	2020年度 秋学期	2021年度 春学期	2021年度 秋学期	2022年度 春学期	2022年度 秋学期
回答した学生数	580	414	78	368	542	459	522	404
問1	4.36	4.49	4.29	4.43	4.38	4.46	4.43	4.48
問2	3.23	3.35	3.59	3.60	3.45	3.47	3.39	3.50
問3	4.19	4.35	4.19	4.29	4.23	4.32	4.26	4.31
問4	4.46	4.55	4.42	4.55	4.49	4.53	4.51	4.55

7. おわりに

教員の教授を中心とした分析から、研究科の学生は（１）本学教員の教授に対する工夫が概ね行われている印象をもち、（２）授業外学習時間は概ね週１時間以上であり、（３）概ね理解したと感じていることがわかりました。また、理解度と教授の工夫には強い正の相関関係、理解度と授業外時間には弱い相関関係を確認できました。理解度と教授の工夫の正の相関関係の因果を考慮すれば、教授の工夫が理解度に影響を及ぼしていると考えられます。本年度は、78.5%が教授の工夫している印象をもち、かつ理解を示しました。今後は、この割合の増加が期待されます。これらの学生主体のアンケート結果より、教員が取り組むべき授業改善のポイントは「知識・技能の習得」「知識・技能を実践・応用する能力の育成」「自ら問題の発見・解決に取り組む力の涵養」に大別されると考えます。

教育開発・学習支援センターでは、教員に対する「教育の質の向上」の全般をサポートするため、以下のような活動を行っています。また、「授業改善アンケート」の自由記述は各授業に対する学生からの直接の声として、各授業個別に改善などに活用がなされてきています。これらを活用することで、学生の修学に対する積極的な対応が可能だと考えています。

- ・個別授業を支援する制度「授業リフレクションのための学生による授業参観」の提供
- ・ゼミ・研究活動の指導を支援する「ゼミ活動等を対象とした学生向けループリック」の提供
- ・FDセミナー等の開催
- ・英語による授業を支援する「アカデミック・サポートサービス」の提供
- ・論文やレポートに対して剽窃チェックを行うソフト「Turnitin」の提供

教育開発・学習支援センターの目的は「ファカルティ・デベロップメント（FD）を中心に、本学での主体的な教育改善と主体的な学習を効果的に支援すること」と表しています。専門職大学の開設、大学入試制度の改革、卓越大学院構想など、日本国内の大学行政改革が激しく進む中、大学はより高度な知的創造力をもつ人材育成が求められており、大学院が果たすべき社会的役割も変化しています。大学院でのより高度な教育研究に対して、有益なサポートを教育開発・学習支援センターでは行ってまいります。今後とも、「授業改善アンケート」をはじめ教育開発・学習支援センターの活動へのご協力をどうぞお願い申し上げます。

お問い合わせ： 法政大学教育開発支援機構教育開発・学習支援センター (<http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>)
事務局 学務課教育支援課 Tel: 03-3264-4268 E-mail: kyoiku@hosei.ac.jp

付表 大学院データ：2022年度全学集計表

問1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか。例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答総数	5 大変工夫 していた	4	3	2	1 あまり工夫 していない
<総計>	780	926	3,045	1,859	806	304	36	40
<受講者数規模別>								
10人未満	370	-	801	575	165	49	5	7
10-24人	341	-	1,631	943	473	171	22	22
25人以上	69	-	613	341	168	84	9	11
<学年別>								
修士1年	-	500	1,732	1,073	453	166	20	20
修士2・3年	-	164	317	224	72	14	3	4
博士後期	-	32	51	37	11	3	0	0
その他	-	64	115	53	43	19	0	0
専門職学位課程1年	-	126	669	389	180	78	8	14
専門職学位課程2年	-	32	141	68	46	22	3	2
専門職学位課程3年	-	8	20	15	1	2	2	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	551	-	2,233	1,370	594	225	20	24
兼任	229	-	812	489	212	79	16	16

問2. この授業に関しては、授業時間につき、平均してどれくらいの授業外学習をしていますか。例えば、予習・復習、課題、授業内容に関する図書・情報収集など、友人や教員との討論や質問含む。

項目	回答された授業数	回答した学生数	回答総数	週3時間以上	週2時間以上 3時間未満	週1時間以上 2時間未満	週30分以上 1時間未満	ほとんど 行っていない
<総計>	780	926	3,045	709	784	868	497	187
<受講者数規模別>								
10人未満	370	-	801	257	231	198	88	27
10-24人	341	-	1,631	364	394	500	258	115
25人以上	69	-	613	88	159	170	151	45
<学年別>								
修士1年	-	500	1,732	370	457	485	315	105
修士2・3年	-	164	317	96	90	81	37	13
博士後期	-	32	51	34	3	13	1	0
その他	-	64	115	8	20	33	22	32
専門職学位課程1年	-	126	669	181	176	196	103	13
専門職学位課程2年	-	32	141	17	37	53	15	19
専門職学位課程3年	-	8	20	3	1	7	4	5
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	551	-	2,233	557	617	629	322	108
兼任	229	-	812	152	167	239	175	79

問3. この授業内容を理解できましたか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変理解 できた	4	3	2	1 理解でき なかった
<総計>	780	926	3,045	1,474	1,061	412	76	22
<受講者数規模別>								
10人未満	370	-	801	490	233	65	10	3
10-24人	341	-	1,631	756	567	252	43	13
25人以上	69	-	613	228	261	95	23	6
<学年別>								
修士1年	-	500	1,732	842	606	235	39	10
修士2・3年	-	164	317	192	103	21	1	0
博士後期	-	32	51	37	12	2	0	0
その他	-	64	115	28	48	30	8	1
専門職学位課程1年	-	126	669	310	237	92	23	7
専門職学位課程2年	-	32	141	56	46	31	4	4
専門職学位課程3年	-	8	20	9	9	1	1	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	551	-	2,233	1,075	807	290	46	15
兼任	229	-	812	399	254	122	30	7

問4. この授業を履修してよかったですと思いますか。(5段階評価でご回答ください)

項目	回答された 授業数	回答した 学生数	回答総数	5 大変よかったです	4	3	2	1 よくなかった
<総計>	780	926	3,045	2,070	620	277	39	39
<受講者数規模別>								
10人未満	370	-	801	622	128	39	5	7
10-24人	341	-	1,631	1,083	348	155	22	23
25人以上	69	-	613	365	144	83	12	9
<学年別>								
修士1年	-	500	1,732	1,213	331	144	24	20
修士2・3年	-	164	317	261	38	15	1	2
博士後期	-	32	51	47	3	1	0	0
その他	-	64	115	62	37	15	0	1
専門職学位課程1年	-	126	669	403	170	74	9	13
専門職学位課程2年	-	32	141	73	36	26	3	3
専門職学位課程3年	-	8	20	11	5	2	2	0
専門職学位課程その他	-	0	0	-	-	-	-	-
<担当教員別>								
専任	551	-	2,233	1,543	450	187	28	25
兼任	229	-	812	527	170	90	11	14